

日本介護支援専門員協会の 災害支援活動ならびに 個別避難計画等に係る取組



一般社団法人日本介護支援専門員協会
会長 柴口里則

災害時に向けた ケアプラン（記載例）

総合的な援助の方針

少しずつこちらの生活に慣れてきているようです。「長男のところにきて本当によかった」と思っていけるように
ご近所とのつながりや地域の社会資源を活用しながら、安心してこの町で生き生きと暮らしていけるようにしていきましょう。

※地震等の災害に備え自宅の安全確保及び、発災時には安全な場所へ迅速に避難が出来るよう、近隣住民を始め地域の関係者も含め関係機関と必要な対応策について検討して行きましょう

緊急連絡先 長男 090-xxxx-xxxx 次男 03-xxxx-xxxx

第2表

作成年月日 〇年〇月〇日

居宅サービス計画書(2)

利用者名 介護 花子 殿

生活全般の解決すべき課題(ニーズ)	援助目標				援助内容					
	長期目標	(期間)	短期目標	(期間)	サービス内容	※ ・	サービス種別	※2	頻度	期間
長男の長期出張や不在時の対応を考えたい。		～		～		○	短期入所生活介護	〇〇短期入所事業所	必要時	～
地震等の災害が発生しても、安心して過ごせるように予め対応策を立てて(考えて)おきたい	自宅の安全が確保されること。また、発災時には、迅速な避難支援が受けられ適切にケアが受けられるようにする。	～	災害時要援護者台帳への登録の必要性について確認する	～	台帳登録への必要性を説明し、登録手続きを行う。		災害時要援護者支援	自治会、民生委員	—	～
			近所の方との繋がりが出来、発災時、迅速な避難支援が受けられるよう、自治会を始め関係機関と連携し、避難支援に関する役割分担を明確にしておく	～	日々の地域行事等へも率いずで積極的に参加し、近隣住民との繋がりを深める		地域ボランティア、自治会	地区福祉委員 民生委員 近隣住民	随時	～
					発災時には、自宅→避難所→〇〇短期入所事業所又は、△△医療機関の順での避難支援が迅速にできるよう確認しておく		状態確認 避難支援 避難生活支援	避難支援者となる近隣支援者、自治会等の地域関係者	随時	～
					発災時、適切なケアが受けられるよう、介護保険事業所に対し、定期的な情報提供を行い、対応方法等についての確認しておく	○	状態確認 避難支援 避難生活支援	居宅介護支援事業所、地域包括及びケアチーム(主治医、通所事業、訪問介護、短期入所等)	随時	～
			自宅の安全確保が出来るようにする。	～	耐震診断や耐震補強工事の助成申請を行い、必要な対策を行う		家族 〇〇役所		長男 〇〇課 〇〇課	随時
助成申請を行い、家具転倒防止(予防)器具等の取付を行う										

※ 資料P2・P3の「災害時要援護者」は、2013年以前に使用していました。2013年以降は災害対策基本法上、「高齢者、障害者、乳幼児等の配慮を要する者」を「要配慮者」と表現し、「要配慮者のうち災害時に自ら避難することが困難な者であって、その円滑かつ迅速な避難の確保を図るため、特に支援を要するもの」を「避難行動要支援者」と表記されます。

④ 要援護者のリスク・アセスメントシート

記載事例 災害時リスク・アセスメントシート(課題・対応策整理票) 表面

災害時リスク・アセスメントシート(課題・対応策整理票)

作成日: 年 月 日
作成者所属: みどり居宅
作成者氏名: 介護 太郎

利用者氏名: 介護 花子(カゴ ハナコ) 殿 ※ 課題や危険があると予想される場合は□の箇所にレ点を入れましょう

項目	課題の整理	課題チェック	避難所生活、待電時など予想される課題
健康や介護	災害時に配慮すべき健康や介護の課題がある ※ 精神疾患や認知症等による避難生活の課題はここに記載する	<input checked="" type="checkbox"/>	塩分制限があり6g/日 股関節術後耐用年数が経過、再手術をせず経過観察中。日常生活上、無理な運動や動作は避ける必要がある。 和式トイレでは排泄ができない。 浴槽の跨ぎができない。 仙骨部に床ずれができやすいため、配慮が必要。
特別な医療	<input type="checkbox"/> 点滴の管理 <input type="checkbox"/> 中心静脈栄養 <input type="checkbox"/> 透析 <input type="checkbox"/> ストーマ・カテーテルの管理 <input type="checkbox"/> 気管切開の処置 <input type="checkbox"/> 疼痛の管理 <input type="checkbox"/> 経管栄養 <input type="checkbox"/> じょくそうの処置 <input type="checkbox"/> その他()	<input type="checkbox"/>	
電源使用の医療機器	<input type="checkbox"/> レスビレーター(人工呼吸器) <input type="checkbox"/> 酸素療法 <input type="checkbox"/> 吸引器 <input type="checkbox"/> その他()	<input type="checkbox"/>	
内服・衛生用品	欠かせない医薬品や衛生用品がある	<input checked="" type="checkbox"/>	物忘れが多少あり、飲んだかどうかの確認が必要。
電源使用の福祉用具	<input type="checkbox"/> 電動ベッド <input type="checkbox"/> エアマット <input type="checkbox"/> 昇降機 <input type="checkbox"/> その他()	<input type="checkbox"/>	

※ 関係者と検討した大規模災害時の対策を記載する
優先的に安全確認が必要と判断した場合は優先順位にレ点を入れましょう

主治医と相談
大規模災害時に、自宅で生活ができないような状況の際に

記載事例 災害時リスク・アセスメントシート(課題・対応策整理票) 裏面

危険を一時的に回避する場合 → 避難地
自宅暮らしの場合 → 避難所

避難所で暮らせない方の場合
福祉避難所は特に介護が必要な方への設備や人員の整備があります。
介護保険施設は法に基づき、大規模災害時はやむを得ない状況として施設の定員超過が認められます。

身体機能: J1, J2, A1, A2, B1, B2, C1, C2
認知機能: 自立 I, II a, II b, III, IV, M
要介護度: 支1, 支2, 介1, 介2, 介3, 介4, 介5

被災後は混乱が予想されます。避難先へ適切な情報提供ができるよう準備をしておきましょう。

軽介護 → 重介護
医療依存度の高い方

実際に避難が想定される避難場所を調べて記入する(一覧表に記載する)

避難地(集合場所)/避難所
避難地の指定なし / ○○○○小学校

福祉避難所名
二次避難所として○○○高齢者センター

介護保険施設名(ショートステイ等の利用歴のある施設名など)
○○○特別養護老人ホーム

病院・主治医名
○○○総合病院

その他(身を寄せる可能性のある親族など)

※ 現在の状況の箇所にレ点を入れ、あてはまる箇所に○印をつけましょう

項目	移動の方法	現在の状況	災害時要援護者登録の有無	避難方法や避難支援者を記載し、課題が残る場合は優先順位にレ点を入れましょう
自力で徒歩		<input type="checkbox"/>	有 <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/>	避難方法における配慮 液体化の影響で、道路が凸凹となり、車両や車いすでの移動が困難になると思われる。避難先までの車いすで移動する際には二人以上での対応が必要と思われる。
手引き誘導		<input type="checkbox"/>	災害時要援護者登録 特に、要介護3以上の方や認知症の方、一人暮らしで一人では避難できない方などには必要な制度です。詳しくは、市町村・区にご確認ください。	
車いす介助(有: <input checked="" type="checkbox"/> なし: <input type="checkbox"/>)		<input checked="" type="checkbox"/>		
ストレッチャー介助・担架を使用		<input type="checkbox"/>		
日中や時間帯によっては、避難支援者が不在になる(介護者の帰宅困難も想定しておく)		<input checked="" type="checkbox"/>	登録者の希望の有無 有 <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> ※ 必要性を理解していただき、登録するように勧めましょう。	同居長男は、仕事先からの帰宅困難となるリスクが高い。近隣に知り合いがほとんどいないため、災害時要援護者登録の希望をされていない様子。近隣住民とのつながりを今後、長男や民生委員と検討していきたい。

【特記事項】

e. 利用者の避難経路および避難箇所

○ 自宅
◇ 避難所
◇ 福祉避難所
+ 病院
□ 介護保険施設

○○○小学校 徒歩10分
○○○高齢者センター 徒歩30分
○○○特別養護老人ホーム 徒歩1時間

アセスメントにより
課題を明確化
災害意識を深める

※ 資料P2・P3の「災害時要援護者」は、2013年以前に使用していました。

2013年以降は災害対策基本法上、「高齢者、障害者、乳幼児等の配慮を要する者」を「要配慮者」と表現し、「要配慮者のうち災害時に自ら避難することが困難な者であって、その円滑かつ迅速な避難の確保を図るため、特に支援を要するもの」を「避難行動要支援者」と表記されます。

災害時こそ多くの支援団体との 緊密な連携でチーム一体となった 支援の重要性

災害は平等 被害は不平等

…社会的弱者がもっとも被害をうける

個別援助計画から、BCP（事業継続計画）訓練の実施を各事業所のみでなく、地域の事業所同士の助け合い（共助）行政との日ごろからの取り組み（公助）が求められる。

一つの命も、災害で亡くさない。一つの事業所も被災で廃業しない。何より地域が被災しても立ち直る期間を短くすると、高齢者にとってのダメージは少なくて済む。被災後も事業を継続するための発災前の準備行動が重要である。さあ！今から始めよう！



国民のみなさまへのメッセージ

私たちからの5つの約束



- 私たち介護支援専門員は、あなたらしい生活を応援します
- 私たち介護支援専門員は、災害時や感染症禍の中でも支援を止めません
- 私たち介護支援専門員は、人生の最終段階までの伴走者です
- 私たち介護支援専門員は、身近で相談しやすい存在です
- 私たち介護支援専門員は、常に質の向上をはかります



全文は当協会ホームページに掲載しています

ご清聴
ありがとうございました

